

# 山口晴夫さんを偲ぶ会

## 追悼メッセージ集

(本日参加できなかった方から寄せられました)

2004年7月10日

グランドホテル湘南

# 山口晴夫さんを偲ぶ会 参加者

(急遽参加された方でお名前が漏れている方がいる  
 かもしれません。ご了承下さい。)

	山口 君枝					
	鈴木 中					
39回	小泉 親昂	小杉 溥孝				
41回	相羽 克治	井通 元康	植松 二郎	黒沢 秀樹	小泉 親種	渡辺 象次
42回	小川 (及川) 和夫		田部井 徹	和田 正則		
43回	加納 正道	富田 喜男				
44回	坂部 治郎	橋本 廣和	本城 勇介	溝口 一郎		
45回	浅倉 泰	中野 謙司	水谷 政保	宮崎 健	横山 雅行夫妻	
46回	上野 義弘	岸本 喜久雄	松元 隆平	森 秀樹	山口 廉隆	
47回	神本 (白石) 千石					
48回	青木 猛	五十嵐 進	鈴木 啓介	関 佳史	中嶋 修	吉田 弘
49回	菅浦 義治	元松 経男				
50回	沢田 ミツル	土屋 正憲				
51回	五代 厚司					
52回	志水 利彰					
53回	武藤 俊一	田中 聡夫妻				
54回	藤塚 久雄					
59回	大久保 将之					
64回	及川 憲之	木村 義幸	善木 茂雄	羽尻 慎		
	遠見 治	遠見 享				

# OB会報

湘南サッカー部OB会

第12号

## サッカーの魅力

前部長 鈴木 中

何ヵ月振りかで四十雀の若手のメンバーの中に入ってボールを蹴った。(平成3年リーグ最終戦)

最近少しづつ体慣らしをして、動いている為か公式戦30分を何とかお荷物にならずに仲間入りする事が出来た。

サッカーと云うスポーツは大変教育的な男のスポーツだと思う。チームワーク即ち自分だけのことにとらわれずチームのために自分を犠牲にすることもある。子供達にとっても大変有意義なことが多い。体を鍛える、頭を使う、自立心を養う、協調性を身につける…等々いいことづくめである。

私の様に永年サッカーを教えている目から見ると、好きなplayは派手に点を取る事より、地味だけれどどうなるような良いパスが出された時、身を呈して相手のballをうばい取って味方に渡した時、そんな時すばらしさや、美しさを感じます。もちろんアクロバットの華麗なplayもすばらしいと思います。

しかし私の好きなplayはあまり人にはわからないが、その選手が自分だけの得意技を使って良いplayをしてニヤニヤしている時何となく男の美学を感じます。

ウイングplayerが絶妙のセンターリングを入れてCFが得点し、観衆から喝采を浴びている時一人ニヤニヤしながら、“良いパスがあれば得点なんて誰でも出来るのだ”と心の中で思っている時が、一番気持ちの良い時なのです。

年を取って四十雀のサッカーはどうすれば良いのだろう。勝った負けたは二の次の様な気がする。試合が終わって、こち良い疲労と満足感を味わうにはどんなサッカーをすれば良いのだろうか。

味のある魅力あふれる年寄のサッカーとはどんなものだろうか。人様々で良いと思うが、「あるレベル以上の体力と気力の上に立って、良いplay、良いpassのサッカー」が目指すものの様な気がする。納得の出来るサッカーをやる為にはそれなりの準備が必要だろう。次の試合のスケジュールに合わせて準備とトレーニングそして満足のできるplayをしてうまいビールを飲む。体のアチコチの痛い、こち良い疲労は次の日からの仕事には決してマイナスにはならないだろう。

あるレベル以上の体力を維持する為には涙ぐましい努力を必要とするかも知れない。そんな努力をしようとする強い意志があれば四十雀のサッカー選手の資格は十分あると云って良いだろう。

## 「OB会運営に関して」

45回 山口 晴夫

私の記憶によると、確か昭和40年代の後半である。当時、O・Bとしてよくグラウンドに顔を出されていた小泉さん（兄）に岩渕先生（湘南の英語の教諭であられた）より現役の遠征等に資金援助するため、広くO・Bに連絡せよと依頼があり、名簿と住所ファイルを渡された。大学生で毎週土曜日にボールを蹴りにいていた私は連絡係をするうちにこの仕事を手伝うことになった。

現在県会議員として活動なさっている小泉先輩はこのころ、鎌倉市内で様々な活動を行っていたため、お宅に簡易な印刷場を持っていた。そこでの謄写版印刷の裏半紙による会報が現在まで続いているものの最初の形なのである。現役の生徒が岩渕先生の言われたO・Bのお宅を訪ね、寄付をお願いするということが行われていたのもこの頃である。

このように、岩渕先生や鈴木 中先生の個人的な御尽力でなされてきた活動は、1月15日の蹴球祭を中心としたO・B会組織の運営へと徐々に移行されていった。数年ごとに大きなイベントが行われた。まず岩渕先生に関しては、還暦祝いサッカーと、悲しいことではあったが先生の死を悼み催された蹴球祭はO・Bの枠を超え多くのサッカー仲間を集めた。中でも、忙しさも何も感ぜずに奔走できたのは64年の全国選手権出場祝賀会であった。数百万円の会費、寄付金によりたくさんの活動が行われ、何より多くのO・B諸兄が一同に会せたことは過去にないことであり、まさに岩渕先生のおっしゃられた「現役あつてのO・B会」の感を強くしたものであった。

さて、近年、各年代ごとのサッカーを通じて交わされるつながりは盛んであるが、縦に連なる交流特に現役とのそれは蹴球祭でも試合の日程によってはかなわないのが現状である。会費納入も近年横ばいを続け、昨年のように現役がグラウンドを求めジブシーを始めるとそれに充分対処できないありさまである。上記のような会の運営における現状を訴える意味を込めて今回、手作りの会報を発行することにしました。（予算の欠乏が一因です）

OB・OG諸氏！ 蹴球祭に集まりましょう！！

若手OB・OG！ 会費納入をしていますか??

サッカーというスポーツを通して結びついた友は多い。それはチームメイトであり、また宿敵チームのメンバー、そして、サッカーを行ったという事だけで知り合い馬が合った人等である。しかし、私にとってサッカーを行う青少年を育てることにロマンを感じ、そのことの為に生活を考え、Life work としてとらえている同志的存在は周囲に少ない。私が自分勝手に同志と考えている数少ない人々の一人で、我が湘南サッカー部のユニークなOBが湯浅健二（46回）である。

一言でいうと、現在サッカーに情熱を傾けながら、我が国において知名度の低い人物は他に無いであろう。現役時代の彼を知るものは、立派な体（188cm、80Kg）を生かすことなく、先生に怒鳴れて、全ポジションを回ったあの湯浅を思い出すであろう。しかし、高校を卒業後の2～3年が彼に何かを与えたのであろう。

私と彼は1974年ワールドカップに優勝した西独に、サッカー見聞旅行を行ったのである。ある時は大学の学生寮にもぐり込み、また西独蹴球協会のゲストとして一週間をすごしたりの珍道中ではあったが、プロチームの試合に興奮し、またワインに酔って議論したりの数日間は充実した日々であった。

その後、二人は食える道と食えない道に別かれた。すなわち私は体育教師として教職に、彼は陸送のバイトによる100万円とともに西独にコーチになる為のサッカー留学を行ったのである。現在この食えないがたのもしい同志は、おそらく日本人として最初であろうコーチのライセンスのトップにあたるものを取得し、自己のサッカー理論を日本で展開すべく準備を行っている。おそらくコーチ、湯浅という名は近い将来、その行動とともに現われてくるであろうと遠くKOLNの地を思いながらマイホームでビールを飲んでいる今日このごろである。

人はその青年期において、決定的とも言える体験を持つ、我々サッカー部OBにとって湘南サッカーはおそらくこの体験の一つになるであろう。我が同志湯浅にとって湘南サッカーは最も大きな体験であったであろうことを、OB諸兄、そして、後輩に知らせたくこのページを借りた。

晴夫さんへ …… 2004年ケルンにて

46回生 湯浅 健二

いま、ドイツのホテルでキーボードとにらみ合い、晴夫さんのことを思っています。

晴夫さん・・・急逝を知らず、葬式に出られなくてゴメン・・・でも、そのことを知ったとき、ケンカしながら旅をした西ドイツでの珍道中や、食えないサッカーコーチが書いた本をまめに学校図書館に所蔵してくれていたこと、また口角泡を飛ばしてサッカーについて議論したことなどに思いを馳せながら、心の底から手を合わせていました・・・サッカーを通して青少年を育てることにロマンを見出していた晴夫さん・・・二人で、サッカーのメカニズムを突き詰めながら、やっぱり主体的に自由を勝ち取っていかなければならないサッカーほど人を発展させるスポーツはないよな、なんて語り合ったことを思い出します・・・私は、晴夫さんが、そのコンセプトの実践に、誠心誠意チャレンジしつづけていたことを知っています・・・ロマンを追い求めるからこそその真摯なチャレンジ・・・そこには、様々な工夫と、自分の職業アイデンティティーとの闘いとも表現できる忍耐があった・・・子供たちを発展させるために不可欠な、解放された心理環境があった・・・もちろんそこでは、晴夫さん持ち前のポジティブなパーソナリティーが光り輝いていた・・・

晴夫さん・・・たしかに私は、まだまだサッカーで食えているとはいえないけれど、これからも食えるようになるとは思えないけれど、それも私なりのロマンが先行しているからこそ・・・その意味でも、晴夫さんに同志と呼ばれていたことを誇りに思います・・・これからも、別なフィールドで、晴夫さんのロマンを発展させていくからね・・・心から、ご冥福をお祈りします・・・晴夫さんが自宅でビールを飲みながら思いを馳せた、ドイツ、ケルンにて・・・

## 晴夫さんを偲んで

『こら！早く指示出せ！』とあのドスの効いた迫力ある大声で、怒鳴られていた頃を懐かしく思い起こします。

晴夫さんとはサッカー部入部して初めて出会ったのですが、兄と中学校の同窓であった事もあり、丁度実兄のような存在でもありました。

特に高2の時にキーパーへコンバートされてからは、手取り足取り大先輩から直接指導を受ける事も多く、練習試合の毎に背後霊の様にネット裏から大声で激励される事もしばしばありました。

夏の合宿では、付きっ切りで指導して頂き『大学入学したはずなのにこんなに高校に来て指導していて大丈夫ですか』と聞いて、ポカリとやられた事もありました。

そう言えば真冬には、大事なキーパーの手が寒さでこごえない様にと密にウイスキーを飲ませてもらって試合に臨んだ事もありました。

浪人中にもバツタリ出会った大船のスナックでは、酒飲み過ぎて危うくオバサンに誘惑されるところを残念ながら助けて頂き、そのまま長谷寺の実家に泊めて頂いたこともありました。

確かサッカーで骨折されて藤沢市民病院に入院していた時には、どうしたら美人看護婦さんを誘うことが出来るのかを冗談とも思えないほど熱心に教えてくれました。

大学に入ってから夏合宿や湘南クラブでたまに顔を合わせる機会もありましたが、それより長谷のバイト先で出会う事の方が多かった様に思います。

そこでデザイナーとして働いておられた奥様と出会われ、バイト先の職場旅行にも同行された事もありました。

大学卒業後は大阪に就職した事もあって出会う機会はめっきり減りましたが、4-5年前に藤沢の飲み屋で久しぶりに同期の関・青木・中島・五十嵐・鈴木達に加えてどういう訳か中さんと晴夫さんも参加して頂き、昔話に花を咲かせました。

この時が晴夫さんと懇親した最期だったのですね。

私の心の中にある晴夫さんの笑顔を思い起こし、何かの折にまた勇気付けてもらいます。

当日は参加できずに残念ですが、遠方よりご冥福をお祈り申し上げます。

平成 16 年 6 月 7 日

ベルギー国より

瀬戸 康弘

山口晴夫先輩のご逝去を悼み心から哀悼の意を表します。この度は「案内」をいただきましたが、出席できず、申し訳ありません。

私は、山口先輩の二年後輩に当たります。私の高校時代を振り返ってみますと、山口先輩は、印象に残る数少ない先輩の一人でした。私たち後輩には誰にでも笑顔で気さくに接していただき、とても親しみを持ってご指導してくださいました。私たちも、山口さんとは呼ばずに「晴夫さん」と呼ばせてもらっていました。「晴夫さん」とグラウンドの上で一緒に過ごすことができた期間は、私が入学してから半年ぐらいの短い期間ではありましたが、ゴール前に立ちほだかり、常に大声で練習や試合をリードしていく姿に大きな感動を覚え、多くの勇気をもたらたものでした。チームが引退した後もよく練習に出てこられ、熱心に後輩の指導をされていたのも印象的でした。三十年以上たっても当時の「晴夫さん」の姿が私の心によみがえるほど「晴夫さん」の存在は大きなものがありました。この度は本当に残念なことになってしまいました。当時お世話になったことに深く感謝しつつ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

ご遺族の方々には、この悲しみを乗り越えられ一日も早くお元氣にお過ごしになられるよう心からお祈り申し上げます。



44回生 桑本 卓

幹事役、誠にご苦勞様です。

山口君の後ろからの指示・叱咤が今でも鮮明に思い出されます。

小生らの代は、山口君を初め後輩の方々に支えられ、先生・先輩諸兄の辛抱強いご指導により、何とか、形にならないものが形らしくなっていたと存じます。

その代表格が、GKとしてグラウンド全体を把握していた山口君の指示・叱責でした。

小生、現在、灰塚ダムの現場代理人をしております。

発注者要求は、特記仕様書に明記された文字通り『専任・常駐』であり、国土交通省発注のダムということもあり、地元行事（大抵、土日に開催される）も多く、月1回帰省するのもままならない状態です。（先週と先々週は台風4号、6号対策もあり・・・）

7月10日(土)・11日(日)にも、それぞれ別個の地元行事が予定されており、出席することになっております。

誠に、申し訳ないのですが、欠席とさせていただきます。

灰塚の空から、改めて、山口君のご冥福をお祈り申し上げます。

44回生 分田 真 (ぶんでん まこと)

「分田！こっちのカバーだ！！」

大声で叫ぶ山口君の声が、今も脳裏によみがえります。

試合中は、さん付けで呼ぶ暇はない。「呼びつけ」で十分だ。

これが、お互いの了解なのでした。

合宿の打ち上げの時でしたか、デカ山君の持ち芸、「げんこつを口にいれます」

に、みんなで大笑いしたこともありました。

そして、それに対抗するかのよう、浅倉君が「焼きそば一皿を三口で食べます」というのをやりましたね。

デカ山君の学年は、芸達者で面白いメンバーばかりでしたね。

一方、一年上の我々の学年は、「俺たちの学年はどうも皆芸無しだなあ」と嘆いたものでした。

青春の情熱を、ありったけ注ぎ込んだ湘南サッカー部の3年間は、かけがえのない私の財産です。みんなもそうだと思います。

山口君は、まっすぐで熱血漢。

そして目一杯明るい、まさしく「好青年」を絵に描いたような方でした。

きっとみんなに好かれ続けた人生だった事でしょう。

心より御冥福をお祈り致します。

## 48回生 細川 隆平

晴夫さんは歴代の湘南のキーパーのなかでも、一番、声を通ったのではないか。OB戦などで出場していれば、高校の坂を上るあたりでもう彼だとわかるような声の持ち主だった。「壁3枚、もうちょっと、左、そこ」のように指示する声は今でもよく覚えている。ばかでかい声とは違う。よく響く声だ。声を通るといのは、よいキーパーの条件だと思う。頼りになるから。

一度、藤沢駅あたりのカラオケにいったときには、酔っ払って、歌いまくった。

ぼくは音楽大学を出ているのに歌がへたなので肩身が狭かった。なにかといびられたが、「口が悪いは生まれつき」みたいな演芸人の人格の持ち主とわかっていたので、後味がわるいことはなかった。「またいわれちまった、ひどいよな、晴夫さん」でこちらも納得するような冗談が多かった。訃報をきいてから、いろいろ思い出すことがあります。懐かしい部員と顔を合わせれば、もっとおもいでは掘り起こされるでしょうが、京都からいくのはつらいので、このメールでお許してください。

## 52回生 重松（清原）正久

山口晴夫さんを偲ぶ

サッカー部に入って初めて出場した藤沢1中との練習試合。

大学を卒業し赴任された山口さんが監督をされていた。

気持ちに余裕がなかったため試合のことは忘れているのに

試合後に山口さんを鈴木先生からご紹介いただいたように記憶している。

高校にも指導に来られた。

アディダスの赤のトランクス、ストッキングにあこがれた。

いつも声が大きかった。いつも熱心な指導だった。

指導者として、後輩を育成するという道を貫く心を感じた。

未だに自分が目指している、仕事への情熱、人の育成。

断片的な記憶であっても、なにかが今の自分に生きていると思う。

心よりご冥福をお祈りいたします。

突然の御逝去の報に驚いておりす。  
 今でも故晴夫さんの高校時代の  
 プレーブりを思い起す事ができます。  
 人生、これから仕上げの時期に入る  
 かという年令で、さて御本人も無念  
 であろうと推察いたします。  
 「偲ぶ会」にはどうしても都合がつかず欠席  
 とさせていたのですが、心より冥福を  
 お祈りすると共に、御家族方々に懐念  
 お悔み申し上げます。

心よりご冥福もお祈り申し  
 あげます。

この日は、外国におります。  
 訃報を聞いたのは、小口さんが  
 逝かれた数日後のことでした。  
 晴夫さんとは距離が近かった  
 かも、句を表現のしようがない  
 寂しい思いにかされたものでも  
 落ちついたら、お墓参りへうかが  
 います。このお悔みお悔み...  
 お許し下さい。 湯浅

突然の訃報に大いに驚き  
 ばかりです。現役時代には、気の体  
 力もあるから、けがりの話、まあ、た  
 び思えます。相当は無理の多し  
 体を持っていたから、早世ではなか  
 り。小生もとどろき、仕事も運んで  
 あり。藤沢に帰った、五十音サッカー  
 一途にやっていたら、と思うた夫が  
 あり。誠に残念。ご冥福を切に祈る。

ご無沙汰しております。この度の突然の悲報  
 主人共々驚きと深い悲しみでいっぱいです。清先  
 陣のやども研に声をかけ下すことゝなされた山口  
 さん。又その体にもいつも優しい笑顔を見せて  
 いらした姿が思い出されます。卒後、お慰  
 けしたことがありませんが、やはりあの当時の  
 子のお姿でした。偲ぶ会には残念ながら  
 出席できませんが、主人と共に心より冥福を  
 お祈りいたします。  
 鈴木先生にも、機会がありましたら一度お目  
 にかかりたいと思っております。よろしくお伝え下  
 さい。  
 城向和子、秀明

晴夫さんの思い出は大抵  
 がニッカリ封。①体青学での  
 のバコ! ②国体予選決勝  
 選での「奥寺」のコロコロミ  
 を入らへ、おしくも敗退した  
 こと。御冥福をお祈り  
 いたします。

1999年11月



1975年6月 45回生同期一同



1989年1月1日 国立競技場にて



第6回古河市マスターズサッカー大会



2004年1月 最後の同期会 中野家にて



2000年8月 48回生一同

